

平成29年 第7回伊那地域協議会会議録

開催日	平成30年3月27日(火)								
開催時間	開 会	午後6時			閉 会	午後7時30分			
開催場所	生涯学習センター 7階 701、702会議室								
委員の出欠 出席26名 欠席13名		委員氏名			委員氏名			委員氏名	
	1	板倉 倫顕	出	16	伊藤 和義	出	31	岩本 庄平	欠
	2	守屋 武夫	出	17	西澤 茂成	欠	32	高橋 陽子	欠
	3	伊藤 仁	出	18	福澤 千絵	出	33	唐木 由美子	出
	4	久保村 友保	出	19	若林 一雄	出	34	鈴木 優子	欠
	5	白鳥 始	欠	20	池上 直樹	欠	35	平澤 澄穂	欠
	6	細田 幸一	欠	21	宮下 平治	出	36	武田 登	出
	7	中村 初治	出	22	畑 英城	欠	37	平賀 裕子	出
	8	宮下 信一	出	23	中村 繁子	出	38	小林 正	出
	9	中村 隆幸	出	24	小林 旬子	出	39	井口 清吾	出
	10	伊澤 芳人	出	25	向山 昌江	欠			
	11	有馬 久雄	出	26	田中 利幸	出			
	12	酒井 秋雄	欠	27	小池 弥生	出			
	13	林 典男	出	28	中村 一重	出			
	14	米窪 砂男	出	29	永井 治彦	欠			
15	平澤 徹	出	30	清水 功	欠				
署名委員	中村 初治			宮下 信一					
条例第10条の規定により出席した者	なし								
市側の出席者	なし								
出席した事務局職員	地域創造課長 宮原 貴敏 地域振興係長 飯島 勝 地域振興係 橋爪 智美								
報告	(1) 伊那地域協議会からの提言について (2) 平成30年度伊那市協働のまちづくり交付金選考結果について								
議事	(1) 次期伊那地域協議会への引継事項について (2) その他								
配布資料	資料 No. 1 H30伊那市協働のまちづくり交付金事業一覧 資料 No. 1-1 伊那市協働のまちづくり交付金事業選考シート								

1 開会

久保村副会長により、開会する。

(欠席の報告)

2 あいさつ (会長より)

今年度最後の伊那地域協議会である。本日は過日の市長への提言について、まちづくり交付金選考結果について、次期地域協議会への引き継ぎについてを協議いただく。よろしくお願ひしたい。

3 会議録署名人の指定について

(会長)

会議録署名人に7番 中村 初治委員、8番 宮下 信一委員を指名する。

4 報告事項

(1) 伊那地域協議会からの提言について

(会長)

平成30年2月14日水曜日の午後2時30分から市役所の応接室で提言書を提出した。出席者は正副会長と事務局で、市長へ提言について説明し提出した。市長から「全体については、市民が主体となってやるのが盛り込まれており期待をしている。すぐに実施できることや、期間が必要なこともある。中心市街地の活性化については、伊那市の駅前には様々な課題があり、慎重に対応していく必要がある。空き家があったり、空きビルがあったりするが、案内にペッパーなどのロボットを置くことも考えられる。いなまちアプリを上手く連動させて案内することもできるのではないか。公共施設の在り方について、環状北線を整備し、国道153号伊那バイパス接続させることが効果的だ。今そのように動いているわけだが、早く整備されるといい。美篤の中央清掃センターの跡地は、防災拠点的な施設、災害時には避難場所として活用できる屋内運動場も考えられる。」といった話があった。

(2) 平成30年度伊那市協働のまちづくり交付金選考結果について

(事務局)

伊那市協働のまちづくり交付金選考結果について説明

<質疑・応答なし>

5 会議事項

(1) 次期伊那地域協議会への引き継ぎ事項について

(事務局)

次期伊那地域協議会への引き継ぎ事項について説明

<質疑・応答>

(委員)

新旧の委員の間で、引き継ぎがなされていないケースが数多くある。毎回最初の2、3回までは、ゼロからのスタートになる。無駄な時間である。引き継ぎは必ずきちんとしていただいて、新しい委員の方が出てきて、せめて2回目からは本題に入れるような引き継ぎをしていただければと思う。

(委員)

今現在で次期委員に引き継ぐような案件はあるのか。

(事務局)

昨年の2月と、今年の2月に市長への提言ということで提言書にまとめた中に、地域住民が取り組んでいくこと、協働で取り組むことの記載があるかと思う。こうした提言をしている中で地域ではこういうことには取り組んでいくということを次の委員に引き継いでいただくと、進捗状況を聞いたときにもスムーズに理解ができると思う。提言書の内容を引き継いでいただくということと、地域協議会がどのような会であるかということ伝えておいていただくと、新しい委員さんが取り組みやすい。

(委員)

交付金の選考についてだが、選考委員は荷が重かった気がする。それから毎回申請される方が同じような方である傾向がみられる。全体で1,500万円予算があるので、もう少しPRが必要ではないか。地区によって基準が異なる気がする。統一した基準がないと選考が難しい。もう一つは交付金のチェックで、後々どう使われているかが少し疑問に感じる。主要品目の変更もあったようなので、基準等を明確にしていけないのではないかと思います。

(事務局)

交付金の活用方法・実績については、今のところは事務局を中心に提出された書類や成果物、領収書の原本などを確認する中できちんとした使われ方をしているというものに対して額の確定をし、その後支払いをしている。事業の実施結果については、確認をしているが、もう少し広く実績についても周知していくことが必要と思うので、検討していきたい。他地区の状況だが、他の地域協議会についても同じように市の職員が事務局をやっている。事務局職員の中で対象・対象外といった基準の統一を図っているわけだが、どうしても目線がずれてしまうこともあるので、今後きちんと合わせていきたい。PRについては、区長宛に募集の通知を送付している。また、市報の回覧で募集チラシを入れて周知してい

る。

(委員)

募集の際に、過去の例も載せれば参考になるのではないか。

(会長)

残額はどうするのか。

(事務局)

今回290万円程残りがあがるが、2次募集をしたいと思う。

(会長)

2次募集をするということで良いか。

<異議なし>

(委員)

実績報告の関係で、最終の実績報告を会長には目を通していただく方が間違いがないと思う。来年引き継ぐ案件かもしれないが、地域協議会で中心市街地の活性化についてアプリを作成することになったが、これからの進捗状況を聞きたい。

(委員)

いなまちアプリを制作して、店舗情報を更新するということは最初の初期設定で、ライター講習会、写真の撮り方講習会等も終了している。メインとなっている一般市民のライターの記事を編集してアップしようと作業を進めている。記事は今あるものを全部アップしてしまうのではなく、例えば3月に2つアップして、4月にも2つアップするというように更新していく計画になっている。3月31日までに2本の記事をアップするように作業を進めている。

(委員)

3期6年間委員をやらせていただいたが、当初地域協議会がなんの会なのかわからなかった。最初は公民館を取り壊して、立て替えるということが話し合いの主で、訳の分からないうちに、大きなお金をどのように分配してどのように使うかといったことになり、自分自身でもこの会が何のためにどういうことをするのか、モヤモヤしたままできた。協働のまちづくり交付金は今後も続いていく事業なのか。実際には交付金をどのように配分するのかを主に話し合うような会になってきている。

(事務局)

この地域協議会が大きなお金を配分するための会のように思えるというご意見だが、交付金はそれぞれの地域で地域の活性化に向けて必要なものに使っていくというもので、必ずしも団体に配分しなければならないというものではない。地域協議会の中で、こういった取り組みに使っていこうということになれば、地域協議会の中で活用していくこともできるものである。協議会でどの団体に配分していくのかということを決めるだけでなく、費用が掛かるもの、今までお金がなくて取り組みなかったようなことに、この交付金を活用するということが大前提の交付金なので、お金がないので申請しましたというのではなくて、本当に地域の活性化につながるもの、直接効果が出てくるようなものに優先的に充てていく交付金である。

(会長)

初めにこの会を立ち上げたときには、伊那公民館を立て替えるが、どんな公民館がいいかということを検討した。それから伊那市営球場がフラットになったが、それもどんな改修がいいか、どんな球場がいいかということも検討した。交付金は後ほど出てきたことであり、初めは無かった。全国的な状況を見ると、この地域協議会に交付金をものすごく出しているところもある。豊田市に見学に行くと、トヨタ自動車があることもあり、高額な交付金を出していた。そういったものを勉強してきて、ただ議論しているだけではなく、地域の小さな事業については、交付金を援助をしてもらって取り組んでいこうということになってきた。例えば今年度の提言の中に、伊那地域の公共施設の在り方について協議してきた。バイパスが通るので、道の駅を作れば地域が活性化するのではないかということが上がってきて協議してきた。それは交付金を分配するための協議ではない。この伊那地域協議会は地域が抱えている課題を解決していくことが主たる願いである。課題を解決していくために、行政と地域で協働して取り組んでいく。両方で知恵を出し合っていくというのが、最も大事なねらいである。交付金が後発で出るようになったので、少ない金額だけどその交付金で区のような小さな単位でも課題解決に向かったことができるのではないか。大きな課題もあるし、小さな課題もあるというようにご理解いただければいいのではないか。

(委員)

協働のまちづくり交付金はどういった経緯で交付されるようになったのか。提言したことによってなのか。

(事務局)

平成26年、27年に地域自治区制度の見直しを行っている。その中で平成28年の4月から交付金の制度が始まっている。委員の皆さんの報酬を無くさせていただくことも決まってきた。

(委員)

地域づくり交付金の関係だが、他の補助金、コミュニティ助成金や県の元気づくり交付金など、そういった交付金の紹介も並行してPRすることが大事ではないか。

5 その他

(会長)

平成28年5月から2年間委員としてご協力いただいた。地域の課題を解決するために、よりよいまちづくりのためにご協議いただいた。ご承知のように伊那地域は他の地域と違って範囲が広いこと、人口も多いというようなことで、多岐にわたってきたと思う。難しさが他の地域と違ってあったのではないか。しかし、4つの班に分けて課題について取り組んだことは、よかったのではないかと思う。おかげで、4つのテーマについて提言をまとめることができた。また、提言したことが行政と地域とで、どのように協力していけば実現していくのか注目される場所である。皆様の協力に感謝する。

6 閉会

(副会長)

以上を持ちまして、第7回の伊那地域協議会を閉会とする。

本会議に会議録を作成し、会長及び会議録署名人において下記のとおり署名する。

平成30年3月27日

平成29年度 第7回伊那地域協議会 会議録

会 長

会議録署名人

会議録署名人